

岡崎地域活性化ビジョン（案）



岡崎地域活性化ビジョン検討委員会

ビジョン策定の背景と目的

明治維新後、東京遷都により衰退していった京都を活性化するために、京都は近代化や産業の振興に取り組んだ。琵琶湖疏水の建設や平安遷都1100年記念事業として開催された第4回内国勸業博覧会※はまさに京都の近代化を牽引する事業であり、岡崎地域では平安神宮の創建や多数の展示施設が建設された。博覧会の後も各時代を先導する多くの文化・交流施設が整備され、京都の発展に寄与するとともに、国内でも類のない文化・交流ゾーンが形成されてきた。

今日、右肩上がりの経済成長は終わり、文化、心の豊かさ、生態系との調和、人と人との交流を大切に、都市の創造性を高めることが21世紀の大きなテーマである。

こうした日本における文化力の発信は、京都の役割であり、中でも文化・環境・景観といった優れたポテンシャル※を有し、京都の発展を牽引した「岡崎」が積極的に果たさなければならない。

この度の取組はこうした岡崎のポテンシャルの更なる活用と岡崎地域で展開されつつある関連施策の融合により岡崎地域の活性化の羅針盤となる「ビジョン」を策定し、「優れた都市景観・環境の将来への保全継承」「世界に冠たる文化・交流ゾーンとしての機能強化」「更なる賑わいの創出」を図っていこうとするものである。

「岡崎」が多くの人々を引き付け、魅了する国際交流・文化観光拠点として更に発展し、京都の魅力、日本の魅力を国内外に広くアピールできる地域となることを願って止まない。

検討の経過

市民、有識者、地元、各界関係者など19名の委員で構成される岡崎地域活性化ビジョン検討委員会を設置し、ビジョン検討を進めている。

検討に当たっては、岡崎地域の多様なポテンシャルを踏まえ、地域の個性や役割、発展の方向性などを議論し、50年後100年後を見据えた長期的な見地に立った将来像を設定するとともに、その実現のための方策については、概ね今後10年程度を視野に入れて検討することにした。

岡崎地域活性化ビジョン検討委員会

第1回検討委員会
(平成22年7月13日)



岡崎地域のポテンシャルや課題を共有し、10年後の将来像や実現方策について意見交換を行った。

第2回検討委員会
(平成22年8月18日)



京都市プロジェクトチームでの検討事項や国への特区提案等を報告し、ビジョンで目指す方向、岡崎にふさわしい賑わいの在り方等について議論した。

…作業部会(9月～11月、4回開催)
「ビジョン(案)中間まとめ」(案)の作成作業を行った。

第3回検討委員会
(平成22年12月13日)



ビジョン(案)中間まとめについて協議した。

…「ビジョン(案)中間まとめ」に対する市民意見募集(1月12日～2月10日)

第4回検討委員会
(平成23年3月8日)



市民意見募集結果等を踏まえビジョン(案)を協議した。

※内国勸業博覧会：明治時代、産業振興と国民啓蒙を図る国策として国内で計5回開催(第1回～第3回は東京の上野公園、第5回は大阪の天王寺公園)。京都では平安遷都千百年記念祭とあわせて明治28(1895)年に岡崎地域で第4回内国勸業博覧会が開催され、京都の経済・文化の復興と再生に大きな役割を果たした。

※ポテンシャル：潜在的な力、可能性を表す語。岡崎地域が持つ「魅力」や「可能性」の意味で用いている。

対象エリア

平安遷都1100年を記念して建設された平安神宮と内国勸業博覧会の会場跡地に整備された文化・交流施設の集積は、京都の近代化を先導した場所であり施設機能や集客面において岡崎の核（コアゾーン）と言える。

周辺には民間の美術館・博物館、有名な寺院・神社が集積し、更に近代化を牽引したもうひとつの象徴である琵琶湖疏水と疏水の水を活用した庭園群が優れた水辺の景観を醸し出している。

本ビジョンは、岡崎のコアゾーンと周辺に集積する多彩な地域資源を対象に、その結びつきを強めることで、京都を牽引する更なる魅力的な地域を目指し検討を行ったものである。



凡例	
	検討対象エリア
	岡崎の核（コアゾーン）
	琵琶湖疏水、白川
	市営地下鉄東西線
	京阪電鉄

岡崎地域のポテンシャルと課題

(1) 岡崎地域のポテンシャル

①近代化の歴史と革新性

◆ 京都の近代化を牽引した進取の気風

- 明治 28 年 (1895 年), 工業都市としての発展や京都の圧倒的な文化度を内外にアピールする一大事業として, 現在の岡崎公園付近で, **第 4 回内国勸業博覧会**と**平安遷都 1100 年紀年祭**が開催され, 平安神宮が創建された。(紀年祭の記念行事として時代行列が企画され, 以後, 毎年“時代祭”として開催されるようになった。)
- 幕末の騒乱や東京遷都により京都市が衰微するなか, 殖産興業策の一つとして整備された琵琶湖疏水は, 水運や灌漑用水としての利用のほか, **国内初の売電用水力発電所**の建設へと結びついた。
- 供給された**水や電力**は, 水道用, 工業用, 防火用など多方面に利用され, 京都の近代化の礎となった。琵琶湖疏水及び蹴上・夷川の両発電所は, 京都の重要な都市基盤として, 現在も, 市民の安心・安全な暮らしと都市機能を支え続けている。



平安神宮地鎮祭の余興 (明治 26 年 [1893])



夷川発電所

◆ 近代化遺産

- 周囲の自然景観と調和した**琵琶湖疏水とインクライン*** (南禅寺境内の水路閣も疏水施設)
- 東山山麓では疏水を契機に風致保全とあわせた別荘地開発が進み, 疏水の水を引き入れた**庭園群**を形成している。(近代日本庭園の先駆者とされる作庭家小川治兵衛が手がけた庭も多い。)
- 博覧会跡地には岡崎公園が開設され, その後も様々な博覧会の会場となり, 公会堂や美術館といった様々な文化施設が順次建設され, 一帯に**近代建築物群**を形成した。



インクライン (明治期)



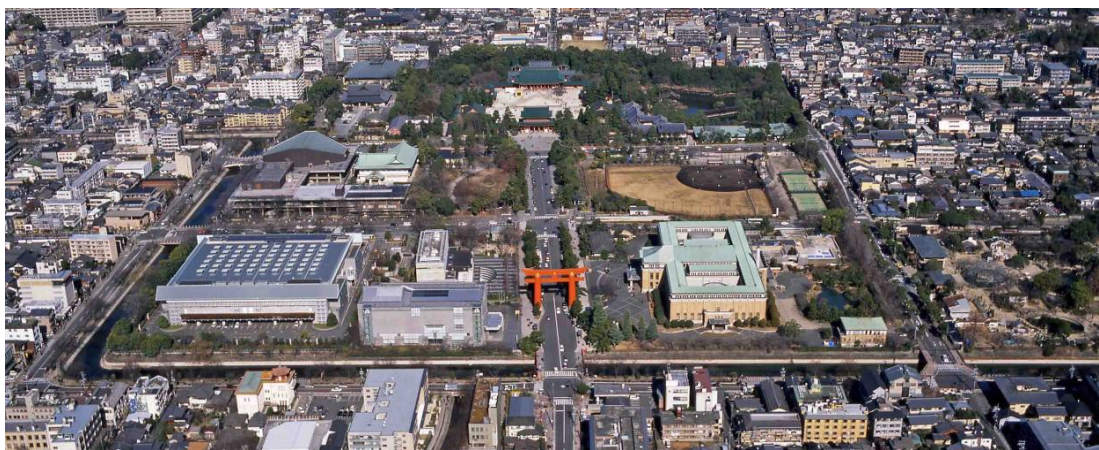
無鄰菴庭園

※琵琶湖疏水とインクライン：琵琶湖疏水は琵琶湖の水を京都市内に引き入れるために明治時代に建設された水路。その完成は舟運, 水力発電, 上水道などの京都の近代化に大きく寄与した。蹴上インクラインは, 舟運で行き来する舟を途中の高低差 3.6 m の斜面を運搬するための傾斜鉄道 (蹴上舟溜から南禅寺舟溜までの間の約 582 m)。現在では運転は休止され, 当時をしのび三十石船と台車が復元されている。

②優れた都市景観・環境

◆ 優れたデザインの近代建築物群

- 岡崎地域には、様々な文化・交流施設が立地し、地域のシンボリックな景観や街並みのアクセントを作っている。
- 岡崎地域の景観は、文化都市のイメージにふさわしい景観が創出され、空間スケールの大きさも国際都市に似つかわしい水準に到達している。これが評価され、国土交通省の「都市景観100選※」に選ばれている。



優れたデザインの近代建築物が集積するエリアの鳥瞰写真（平成21年撮影）

◆ 水と緑が共生する創造的で豊かなオープンスペース

- 都心から少し離れた地域であるため、広々とした創造的な空間が形成されており、地域住民や来訪者の災害時の避難場所としても重要な役割を担っている。
- 地域には水と緑に彩られた豊かなオープンスペースや庭園群が存在する。
- 疏水沿いは、建築物や桜、緑と一体となった優れた景観をつくり上げ、岡崎地域の特徴的なイメージを形成している。

◆ 東山山麓に連なるスケールの大きな借景的眺望

- 各施設の敷地内には十分なオープンスペースが確保され、東山の緑の眺望を確保している。
- 建物が地域内の豊かな緑とともに稜線に溶け込み、東山を借景とした京都の風土に馴染む景観を形成している。



京都会館中庭



東山を借景とした疏水と十石舟

※都市景観100選：日本全国から都市環境が優れた地区や高い水準の都市空間デザインの地区を表彰する国の制度（平成3年～平成13年）。岡崎地域は初年度に「姫路城周辺地区」（姫路市）、田園調布地区（東京都大田区）などと並び選定された。

③年間 500 万人を超える人々の交流の場

◆ 集積する文化・交流・集客施設

- 明治期の内国勸業博覧会の後，一帯に多彩な公設の文化・産業・スポーツ・交流施設が建設され，文化・交流ゾーンを形成してきた。

<京都市の施設>

国際交流会館，美術館，動物園，京都会館，武道センター・武徳殿，岡崎グラウンド・テニスコート，勸業館みやこめッセ，琵琶湖疏水記念館

<国，府の施設>

京都国立近代美術館，京都府立図書館



国際交流会館



京都市美術館



京都会館



京都市勸業館 みやこめッセ



京都国立近代美術館



京都府立図書館

- また，岡崎公園周辺には，個性的な民間の美術館・博物館等も立地する。

観峰美術館，京都観世会館，泉屋博古館，野村美術館，藤井齊成会有鄰館，細見美術館

◆ 豊富な文化財や有名な寺院・神社

- 岡崎周辺には、国宝や重要文化財をはじめ、国、府、市の指定、登録による様々な文化財、名勝が集積する。
- 平安神宮や南禅寺、禅林寺（永観堂）等の有名な寺院・神社もあり、参拝や観光の名所となっている。
- 寺院・神社をはじめ多くの文化資源が集積した祈りや癒しなどの精神文化の拠点となっている。

◆ ハレ舞台での様々な祭り・イベント・催し

- 時代祭や新しいイベントである京都学生祭典のほか、各施設ではコンサートや展覧会など、様々な催しが行われている。十石舟めぐりや薪能など、豊かな地域資源を活かした催しは人気が高い。



平安神宮・応天門



京都学生祭典

(2) 岡崎地域の課題

- ◆ 情報発信が弱く、「岡崎」の知名度が低い。
- ◆ 貴重な文化遺産の継承と活用を両立させる仕組みが不十分。
- ◆ 各施設の老朽化、機能強化への対応が必要。
- ◆ 施設間連携が弱い。
- ◆ 周辺地域からの人の流れや公共交通によるアクセス*が弱い。
- ◆ 優れた景観の継承と文化・交流ゾーンとしての機能強化のための都市計画のルールが必要。
- ◆ 地域に人が憩い、交流し、滞留する機能が不足している。
- ◆ 夜が寂しい。
- ◆ 環境モデル都市*を牽引する進取の取組が必要。
- ◆ 来訪者を総合的に案内する環境が不十分。

※アクセス：ある目的地への到達しやすさ、交通の便。

※環境モデル都市：温室効果ガスの大幅な削減など低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市として国が全国から選定したもので、京都市も選定されている。

岡崎地域の将来像

岡崎地域の多様なポテンシャルを踏まえ、地域の個性や役割、発展の方向性などを議論し、50年後100年後を見据えた長期的な見地に立った5つの将来像を設定した。

多面的かつ普遍的な岡崎の姿を将来像として設定しており、それぞれが独立したものでも、また上位・下位という性格のものでもなく、相互に重なり合い、関連しながら発展するイメージを表している。

岡崎地域の将来像の実現に向けては、岡崎のポテンシャルの更なる活用を図るための地域連携や取組の融合はもとより、多くの叡智や資金が不可欠であり、地域の施設や団体・事業者・行政、市民や企業など幅広い主体が参加する取組として展開させていかなければならない。

- 進取の気風を受け継ぎ、未来に挑む
人材を育む ^{みやこ まな や}京の学び舎
- 伝統産業から最先端産業まで
世界に発信する未来の博覧会エリア

新たな歴史への
挑戦

世界の人々が
ほんものに
「京都

創造する
文化・芸術
の都

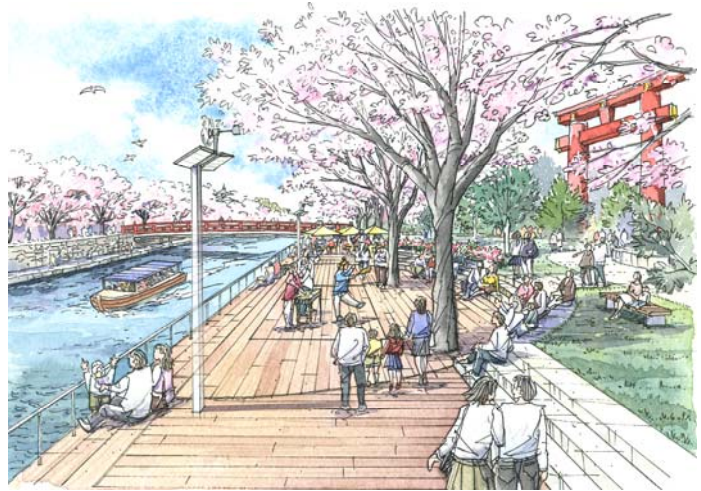
オペラ、バレエ、演劇、能・狂言...

- 世界の一流と京都のほんものに酔う舞台芸術の本場
- 岡崎のミュージアム群をフルに活かした
本物のアートに出会えるまち
- 世界から芸術を夢見る若者が集まるエリア

継承する
山紫水明の杜

琵琶湖疏水、東山、寺院・神社、庭園群、桜・ケヤキ並木...

- 水と緑に抱かれた世界に誇る京都の宝
- 先人が築いた遺産、誇りに触れる癒しとやすらぎの杜
- 未来への持続性と自然との共生を実感・実践する環境未来都市



疏水辺のイメージ

交流する
観光・MICE

拠点

四季折々の景色, インクライン, 疏水水上バス,
一流の舞台芸術, 洒落たカフェ・レストラン...

- 素晴らしき文化, 歴史, 人との出会い, 京都発見への入口
- 多彩な資源集積を活かした岡崎ならではの
ニューツーリズム*, MICE*
- 世界の人々との交流の場

集い
出会う
岡崎」

歩いて楽しい
祝祭と賑わい
の空間

多彩なイベント, ストリートパフォーマンス, 屋外アート...

- オープンスペースで連なる
ハレ舞台のネットワーク
- 市民が主役となる人生のハレ舞台,
京都随一の祝祭空間
- オープンスペースを活かした
市民, 観光客の安心・安全な空間



歩いて楽しい神宮道のイメージ

※ニューツーリズム：従来型観光に対し、地域資源を活かした体験・交流型の新しい形態の観光。一般的には、植林など環境保全に貢献するエコツーリズム、豊かな自然の中で体験・交流をするグリーン・ツーリズム等がある。

※MICE：Meeting（企業のミーティング等）、Incentive（報奨旅行等）、Convention（国際会議、学会等）、Event/Exhibition（イベント、見本市等）の総称。経済波及効果が大きく、京都ブランドの向上や観光振興上、MICE 誘致は重要な政策。

実現のための7つの方策

将来像を実現するため、今後概ね10年程度を視野に入れ、様々な主体が協力して取り組む7つの方策を掲げた。

< 方 策 >

①岡崎のエリアブランド※を構築し、世界に向けて魅力・情報を発信

②山紫水明の岡崎の魅力を創出する琵琶湖疏水と近代化遺産の保存と活用

③文化芸術、MICE 拠点としての機能強化

④地域資源を結び、岡崎の総合的な魅力を高める、保全・創造の景観・まちづくり

⑤多くの人々が訪れたくなる新たな賑わい創出

⑥環境モデル都市を牽引する進取の取組の実践

⑦集客・国際観光拠点としての機能強化

< 目指すこと >

- ◆知名度、集客力が向上し、世界の人々に岡崎の魅力が知られている
- ◆貴重な文化遺産が将来へしっかりと継承・活用され、多くの人々が水辺の空間に親しんでいる
- ◆各施設の機能が向上し、より多くの「ほんもの（一流）」の舞台・芸術・催しが繰り広げられている
- ◆施設間連携が進み、国際的な MICE が開催されるなど、様々な人材・企業・団体の交流、情報発信の場となっている
- ◆優れた景観を保全・継承しつつ、回遊・滞留しやすいまちとして、地域全体がより魅力的になっている
- ◆岡崎にふさわしい新たな賑わいが生まれ、地域全体の活力が向上し、楽しくワクワクする空間となっている
- ◆環境モデル都市・京都の顔となり、身近な環境マネジメントを体感できる地域になっている
- ◆誰もが安心して、分かりやすく観光できる地域になっている

将来像の実現へ

※エリアブランド：他の地域にはない岡崎地域ならではの魅力・個性。

① 岡崎のエリアブランドを構築し、世界に向けて魅力・情報を発信

優れた地域資源や地域の取組を繋ぎ、魅力を向上させることにより岡崎のエリアブランドを構築するとともに、積極的な情報発信などにより岡崎地域の知名度や集客力の向上を図る。

◆ 多様な情報発信と岡崎の知名度向上

岡崎に集積する施設情報や魅力情報を総合的に発信する「ポータルサイト」の開設や、施設・自然・見所などの地域資源情報を網羅した「エリアマップ」の作成など、様々な手法を活用した地域情報の発信・充実を図る。また、駅・バス停や施設名等に「岡崎」を付けるなど「岡崎」の知名度向上を図る。

◆ 地域情報を繋ぎ、融合させる取組

岡崎で展開される多彩な催し情報を集約し、日替わり情報を発信できる「イベントカレンダー」の開設や、地域資源・見所をつないだ散策「モデルルート」の開拓、共通利用パスの発行など岡崎の魅力を繋ぎ・楽しめる取組を推進する。

また、「岡崎の日」「岡崎の週」など、地域全体が連携した来訪者向けサービスやイベントを集中実施する。

◆ 歴史を掘り下げ情報発信

高さ80mを超えたとされる法勝寺の八角九重の塔をはじめ栄華を極めた平安時代末期の岡崎、国内最大級の土木事業として京都に貴重な水をもたらした琵琶湖疏水事業をはじめとする近代化を牽引した岡崎など、歴史情報を掘り下げ、岡崎の物語として発信する。

◆ 岡崎ブランドの構築と発信

ポテンシャルや、魅力づくりを進める岡崎のイメージをキャッチフレーズの作成などを通じ積極的に発信する。



ポータルサイトによる岡崎地域情報の発信

② 山紫水明の岡崎の魅力を創出する琵琶湖疏水と近代化遺産の保存と活用

琵琶湖疏水や庭園群については、文化的景観としての保全・修景を図りつつ、回遊や散策、MICE戦略への活用など、来訪者が岡崎の水辺の景観をじっくりと楽しめる環境づくりを進める。

◆ 重要文化的景観制度を活用した水辺遺産の将来への継承

琵琶湖疏水や庭園群等水辺の近代遺産の保全・修景を図り将来へ継承するため、世界遺産登録も視野に入れ、文化財保護法に基づく重要文化的景観選定に向けた取組などを推進する。

◆ 琵琶湖疏水の修景と活用

来訪者が水辺空間を楽しめる散策路や賑わいスポットなど疏水の修景と魅力向上に資する親水空間を整備する。

桜の開花時期に行っている疏水周遊運航期間や運航時間を拡大するなど、船で楽しめる賑わい環境づくりを推進する。

◆ 東山山麓庭園群の将来への継承と活用

植治の庭をはじめとする疏水の水を引き入れた優れた庭園群を保全、将来へ継承するとともに、公開の機会を増やすなど国内外の方々にその魅力を伝えていく。また、これらの庭園群をミュージアム、ギャラリーやMICE関連施設（宿泊、パーティー、会合等）などとして新たな活用を図りながら保全・継承できる仕組みについても所有者との連携の下で検討する。



疏水から東山を望む



疏水沿いの親水空間のイメージ

③ 文化芸術，MICE 拠点としての機能強化

岡崎ならではの多彩な文化・交流施設の集積を活かし、質の高い文化芸術が創造・発信される世界に冠たる文化・交流拠点としての機能強化と、MICE 拠点としての機能強化を図る。

◆ 文化・交流拠点としての機能強化

・「京都市動物園」は、近くて楽しい都市型動物園として、園内のゾーン分けや図書館、カフェ・レストランなどの施設充実を図る再整備事業に平成21年度から7年計画で取り組む。



動物園の再整備イメージ

・「京都会館」は、岡崎地域活性化の核として、世界一流のオペラの開催が可能となる舞台機能の強化をはじめ、会議棟や中庭、二条通沿いをお洒落なカフェ・レストランなど賑わい空間とするための再整備を進める。

・「京都市美術館」では、集客力のある企画展が誘致できる美術館機能の向上や、市民や芸術家が憩い、交流できる空間機能の強化を図る。（ミュージアムカフェや疏水沿いの親水空間・交流スペース等）

・「みやこめっせ」では国際的なイベント・展示会の誘致促進や、伝統産業ふれあい館の積極的なPR・活用、二条通沿いのオープンスペース活用などによる賑わい空間の創出に取り組む。

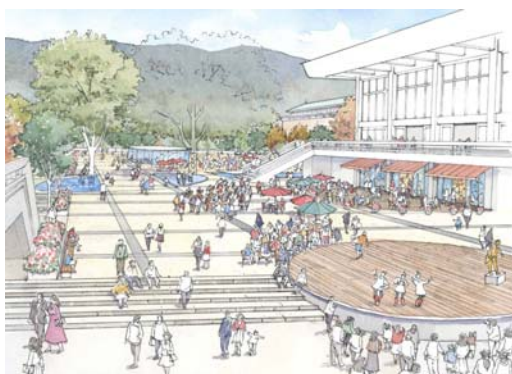
・地域連携と仕組みの構築の中で、官民の文化芸術活動を総合的に発信し、鑑賞・体験の機会を提供していく。また公共空間や官民施設を創作活動や展示スペースとして活用する。

◆ MICE 拠点としての機能強化

国際的な学会や展示会、企業研修・ミーティング、それらに伴うパーティなどMICEの様々なニーズに応えていくため、ハード・ソフト両面の機能の強化を図る。

・「京都会館再整備」におけるMICE機能の強化

・「京都会館」「みやこめっせ」「美術館」「国際交流会館」などの多様な施設集積を活かし、総合的に活用するための企画や調整・相談を行い、質の高いMICEの開催を実現するためのコーディネート機能の創設



京都会館の再整備イメージ（中庭空間）



京都会館

④ 地域資源を結び、岡崎の総合的な魅力を高める、保全・創造の 景観・まちづくり

東山を借景とした広々とした空間を持つ岡崎地域の優れた都市景観・環境の継承と、地域の魅力を高める施設の整備などを可能とする都市計画の変更をはじめ、地域資源を結び、安心・安全で魅力的な都市空間づくりに向けたエリアデザインの検討を進める。また、ビジョンを積極的に推進するため、関連法の規制緩和や税制・財政の支援など、国の総合特区制度の活用を目指す。

◆ 都市計画の変更

優れた都市景観を構成する近代建築物や広々とした空間的魅力の将来への継承と、施設機能強化や賑わいの創出が可能となるよう、ビジョン実現に必要な都市計画の変更を行う。

◆ 近代建築物や街路の保全・修景

歴史まちづくり法の重点区域指定を目指し、国補助制度を活用した建築物や街路の保全・修景を行う。

◆ 地域へのアクセスと地域モビリティ^{*}の向上

岡崎地域の活性化を図る観点から地下鉄東西線の「東山」「蹴上」両駅からのアクセス環境の向上や来訪者の利便性に配慮したバス路線やバス停のあり方を検討する。

また、環境負荷の少ない地域モビリティの向上に向けた検討を行う。

◆ 道路機能・デザインの向上

来訪者にとって魅力的で回遊しやすい地域づくりを進める観点から、各施設や資源を繋ぐ道路機能やデザインのあり方について検討する。

◆ ユニバーサルデザイン^{*}、安心・安全の推進

公園整備や施設整備などを通して、あらゆる人が安心して利用できるユニバーサルデザインの推進と非常時の安全な空間づくりの推進を図る。

◆ 魅力あふれる公園づくり

美術館南側から鴨川に至る疏水及び疏水沿いの緑道を公園区域に編入し、インクラインから鴨川に至る桜並木の道を、散策やジョギング・回遊する魅力あふれる公園として一体化を図る。

◆ 総合特区制度の活用

各施設の機能強化のための整備・改修や岡崎にふさわしい賑わいの創出、文化財・近代化遺産の保存・活用などのビジョンに掲載する取組を推進するため、関連法の規制緩和、各事業への財政支援、活性化に参加する民間事業者への税制支援など、国の総合特区制度の活用を目指す。

※地域モビリティ：一般的に、モビリティは「交通手段、輸送能力」または「人や物の移動能力、行動しやすさ」を表す。ここでの地域モビリティとは、岡崎地域内の移動手段や移動しやすさを表している。

※ユニバーサルデザイン：障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインすること。誰もがより使いやすいものや施設・サービスなどを生み出していくという考えのもと生まれた。

⑤ 多くの人々が訪れたいくなる新たな賑わい創出

道路や公園、施設などのオープンスペースを繋いで一体的に活用し、市民、地域の人々、来訪者に親しまれる、歩いて楽しい岡崎地域にふさわしい憩いの空間と賑わいの創出を図る。新たに、美味しい食事を楽しめる時間や夜の魅力の創出に取り組む。

◆ 夜の魅力創出

岡崎地域の夜の魅力を創出するため、夜間営業を行っていない美術館や動物園、民間施設などでナイトミュージアム、ナイトパークの展開を図る。あわせて、ライトアップやイルミネーションによる演出、街路灯のデザイン検討などに取り組む。

◆ 歩いて楽しい岡崎，神宮道の歩行者専用化・プロムナード*化

神宮道の歩行者専用化により、歩いて楽しい岡崎の実現を目指す。沿道の公園区域と一体となった岡崎のシンボルとなるプロムナード整備を図る。また、屋外アートの設置やストリートパフォーマンス、多彩なイベントが展開できるオープンな賑わい空間の創出を図る。

◆ 岡崎グラウンド空間の多様な活用

野球場とテニスコートとして利用されている現状の岡崎グラウンドは、岡崎地域の核として市民、来訪者がより幅広く活用・交流できる空間とすることが望まれる。

豊かな緑に囲まれた広々としたオープンな空間を大前提として、多彩なイベントや文化芸術活動、スポーツ・レクリエーションなどを楽しめる交流と創造のスペースとすることを検討する。また、周辺の景観と調和した来訪者が憩えるカフェ・レストラン・ショップなどの賑わいを創出することも検討する。

災害時の広域避難場所*としての空間・機能を引き続き確保する。野球場・テニスコートについては、利用状況を踏まえて、代替施設の検討が必要である。

◆ 新たな憩いの空間と賑わい創出

岡崎地域に集積する美術館や博物館、有名な寺院・神社等に対して、ビジョンに掲げる将来像を実現するため、岡崎地域にふさわしい新たな憩い空間、賑わいの創出に向けた主体的な事業の企画を呼び掛けると同時に、各事業推進のための様々な支援を行う。



京都市美術館のライトアップ



二条通り沿いの賑わい創出イメージ

*プロムナード：元々は「散歩、散歩の場所」を意味する仏語。歩くのが楽しい「散歩道・遊歩道」の意味で用いている。

*広域避難場所：地震に伴う大火災等による二次災害の危険から、地域住民や来訪者の生命の安全を確保するための避難場所。

⑥ 環境モデル都市を牽引する進取の取組の実践

当ビジョンに掲げる様々な方策の推進に当たっては、環境負荷の低減や生態系への配慮、再生可能エネルギーの活用や緑豊かな環境の保全など、環境モデル都市を牽引する取組を実践し、広く発信する。

◆ 再生可能エネルギー^{*}の活用・省エネルギー化の促進

低炭素、循環型まちづくり、自然との共生の視点を踏まえ、環境モデル都市を牽引する地域として、太陽光発電や水力発電などの再生可能エネルギーの地産地消活用や施設整備などに合わせた省エネルギー化を促進するとともに、環境教育の場として積極的な情報発信・活用を図る。

◆ 緑のマネジメント

桜をはじめ、地域の魅力の重要な要素である緑を総合的にマネジメントし、良好な緑の環境を保全・創出する仕組みを検討する。



疏水沿いの桜

◆ 水辺・山辺の生態系の保全、情報発信

地域に生息する希少動植物やその生息地としての生態系の保全の取組を情報発信し、環境教育や生態系保全への協力へと結び付ける。

⑦ 集客・国際観光拠点としての機能強化

わかりやすい観光案内を総合的に行い、国内外からの来訪者が気軽に回遊し、岡崎地域の魅力を楽しむ環境づくりを進める。

◆ 岡崎地域の総合的な観光案内

岡崎の施設やイベント情報の総合的な案内人となる「岡崎コンシェルジュ」の創設に向けて取り組む。また、携帯端末の活用や周辺地域の情報発信にも取り組む。

◆ わかりやすい観光案内表示など受入れ環境の整備

来訪者の視点に立った分かりやすい案内標識の設置やトイレの充実など、来訪者の受入れ環境の整備に向けて取り組む。

※再生可能エネルギー：石油・石炭など限りがあるエネルギー資源に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマスなど、一度利用しても再生が可能で、資源が枯渇しないエネルギーのこと。石油等に代わるクリーンなエネルギーとして、国でも導入・普及を促進している

※低炭素、循環型まちづくり：二酸化炭素などの温室効果ガス排出量が少なく（＝低炭素）、製品等の廃棄物の発生を抑え再利用・再資源化が進んだ（＝循環型）社会を目指したまちづくり。

実現のためのプロセス

岡崎地域の活性化を着実に進めていくためには、施設や関係者の主体的な取組に加え、施設間連携の強化が不可欠である。また、行政と施設関係者に加えて、多くの市民や企業の積極的な参画を得て取組を推進していく必要がある。

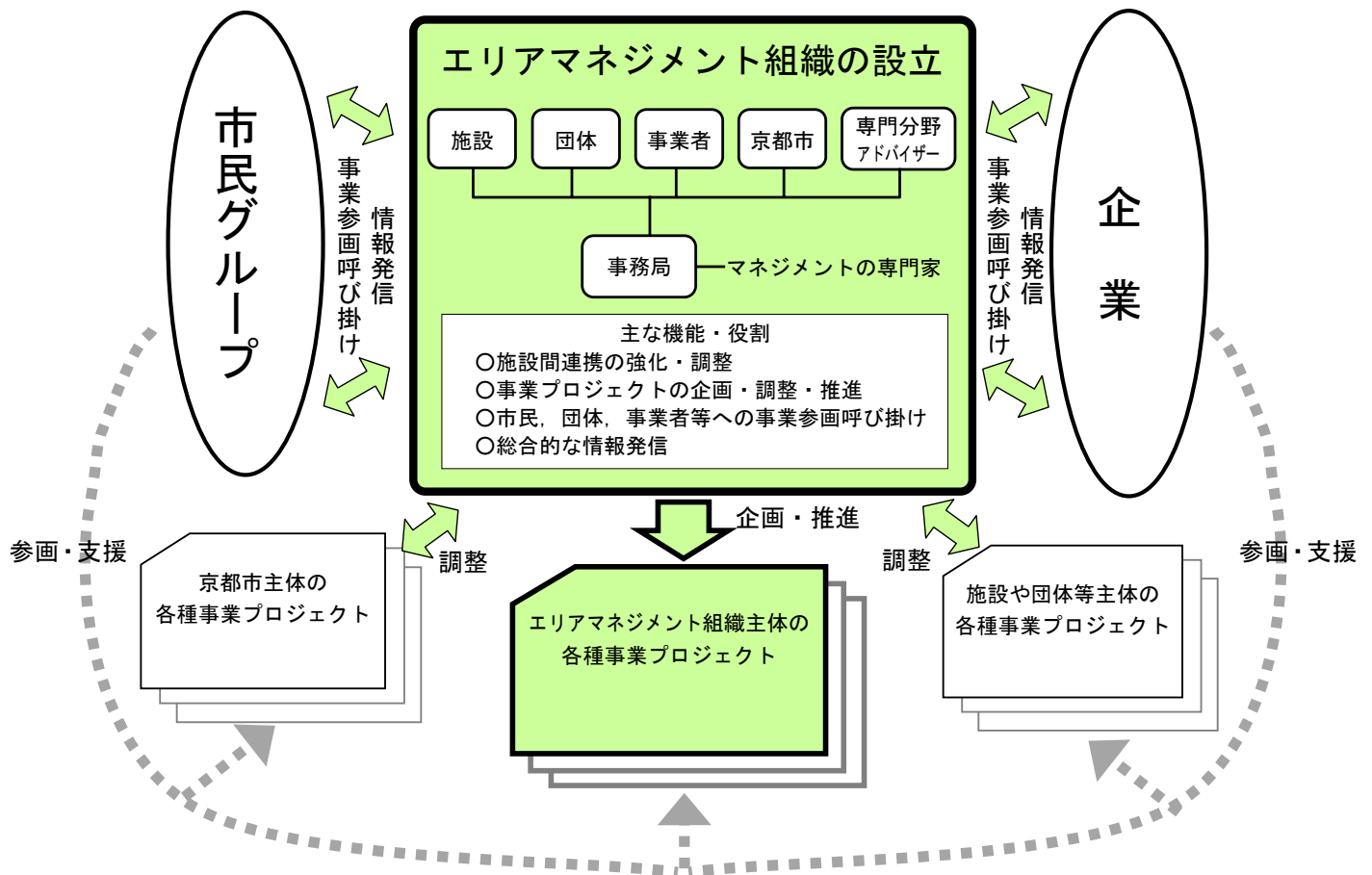
関係者が役割分担と合意形成を図りながら地域活性化の取組を進めていく「エリアマネジメント」組織の設立を目指す。

◆ 岡崎地域エリアマネジメント組織の設立

地域の施設や事業者間の連携強化、魅力ある事業の企画調整や効果的な情報発信に取り組む組織として、地域の施設や団体、事業者、行政、専門分野のアドバイザー、マネジメントの専門家などで構成するエリアマネジメント組織の設立に取り組む。

様々な取組の主体を支援しながら、事業の連携・融合を図るなど総合的な企画・推進機能を持ち、多くの市民や企業などへも広く事業参画を呼びかけていく組織づくりを目指す。できる限り早期に設立し、段階的な充実を図る。

<エリアマネジメント組織イメージ>



「協働で取り組む羅針盤」「進化し続けるビジョン」

21世紀に入り、わが国では人口減少、少子高齢化、低経済成長の時代を迎え、文化的な豊かさ、環境との調和、美しい景観、人と人との絆などを大切にする成熟社会にふさわしいまちづくりを展開することが大きなテーマとなっている。今日のまちづくりでは、行政とまちの主人公たるべき市民との協働、加えて企業・事業者の社会貢献が不可欠である。また、優れた都市の価値を発展させていくためには、単に保存か開発かの二者択一の考えではなく、貴重な地域資源を積極的に活用しながら、岡崎地域の魅力を将来へ継承し、創生していくことを着実に実践していかなければならない。

岡崎地域活性化ビジョン（案）は、こうした今日の社会状況を踏まえて、50年後、100年後を見据えた京都・岡崎の将来像を設定し、地元の住民や施設関係者はもとより、広く市民、企業、行政などの関係主体が協働して取り組むべきまちづくりの羅針盤として検討を進めてきたものである。

ビジョン（案）は、多くの意見やアイデアを出し合い、議論を積み重ねて作成したものであるが、そこにはすぐに着手可能なもの、中長期的な視点で取組を進めていくもの、既存の運用・制度を見直す必要があるもの、大きな財源が必要となるものなど、様々な内容が盛り込まれている。今後、エリアマネジメント組織の設立などとともに、実現のための方策を着実に推進していくためのロードマップづくりにも鋭意取り組んでいく必要がある。

また、市民意見募集など多くの方々から寄せられた意見やアイデアはまさに叡智であり、事業化に当たっては積極的に活用を図っていくことが望まれる。

岡崎地域は、東京遷都によって衰退した近代における京都の危機を乗り越える牽引力を発揮し、時代を先取りする形で進化を遂げてきた地域である。こうした岡崎の進取の精神に則り、当ビジョンについても社会の変化に臨機応変に対応し、時代を先取りするように、絶えず「進化し続けるビジョン」として大いに活用いただくことを願って止まない。

最後に岡崎地域活性化ビジョン（案）の検討・作成に当たって、幅広いご意見をいただいた検討委員会委員各位、実務ベースで検討をいただいた京都市のプロジェクトチーム、そして貴重なご意見・アイデアをいただいた岡崎を愛して止まない多くの市民や関係者の皆様に改めて心から感謝を申し上げたい。

平成23年3月

岡崎地域活性化ビジョン検討委員会
委員長 門内輝行